

バンコクでのライフワークの一つとして、幼稚園でのボランティアがあります。この幼稚園は食育に大変重点をおいており、1年前より園児たちが料理体験をする為のキッチンスタジオを作り、下は2、3歳児のナーサリーから年少、年中、年長さんと、年次によってメニューを変え、食を通して学ぶ、「リトルシェフ」という授業を作りました。私はそのプロジェクトのお手伝いをしています。

「リトルシェフ」はとても素晴らしい授業で、子供達がシェフになってお料理を作り、自分で作ったものを試食することで食に対する興味を促し、食材のことや躰を学びます。いつも私達ボランティアと、そのクラスのお母様が2、3人お手伝いで参加をし、子供達のクッキングのサポートをします。リトルシェフのヘルプに参加されたお母様が私のお箸の講座に興味をもたれて、子供にお箸の使い方を教えてほしい、そんなご要望があつて園の方から課外授業として開催することになったのが、今回の親子でお箸教室のきっかけです。

子供向けのお箸講座は小学生が常でしたので、園児対象でしかも親子の講座というのは実は初めての試みでした。いろいろ悩んだ結果、目的はお箸を使うことを楽しむこと、子供を飽きさせないこと、お母様たちにはお箸を知ってほしい。という観点から先にお母様方にお箸の座学、園の授業が終わるタイミングでお子さんに合流してもらい、少しだけお箸の話と親子でお箸の持ち方の練習、その後、お箸のゲームを2種類楽しんで終了。という構成にしました。

まず初日は年長さん対象で希望者は9組で親子18人、2日目は年中さんが10組親子で20人のご参加をいただきました。

園のサポートもあり進行はスムーズに行き、私の心配していたゲームの時間になりました。子供達はゲームと聞いただけですでに興奮状態で、予想以上のノリでクールダウンに必死だったくらいです。特に年中さんは大はしゃぎでまとめるのが大変でした。

その好評だったゲーム内容はというと、1種目はお箸を使ってスポンジゲーム。これはテーブルに子供の人数分のお皿と、そのお皿に小さめに切ったスポンジを置いておき、テーブルの周りにはお母さんに空き皿を持ってスタンバイしておいてもらいます。子供達はテーブルのスポンジをお箸でつまんでお母さんの持っているお皿に移すというゲームです。箸りんぴっくは園児には難しいかもしれないという懸念と、少し動きがあつた方が楽しめるのではないかとということで、箸りんぴっくをもとにアレンジしたものです。1分で何個運べるかをカウントし、それぞれ2回戦実施しました。

実施組の子供達は夢中でスポンジをお箸でつまんで、お母さんも叱咤激励です。待機組はまるで運動会の応援のようにすごい声援。予想以上に盛り上がったゲームになりました。

驚いたのは年中さんも年長さんも若干4、5歳児にもかかわらずきちんとお箸を使ってスポンジを運んでいたことでした。もみじのような小さな手でもちゃんとお箸を持つことができている様子に感動してしまいました。

興奮冷めやらぬ間に次のゲームに移りました。2つめは箱の中に食材を入れ、何が入っているのかお箸で探って当てるゲームです。

食材はお米、食パン、お豆腐にしました。お米とお豆腐はリトルシェフのキッチンでも課題になった食材です。

参加者の子供全員が食材を当てるのは時間が足りないので、3人をじゃんけんで選抜し、残りの子供達には当てる応援をしてもらうことにしました。

食材を入れる箱は応援側には中が見えるように側面を取り除いてあり、当てる子供の箱の面は手を入れられるくらいにくりぬいて、紙のカーテンで中身が見えないように細工してあります。

園の先生方はお箸で食材を当てるなんて、子供達にわかるのか不安がっていましたが、私は小学校での経験もあったので大丈夫だと思っていました。

このゲームは、応援組の子供達は箱に入れるところで食材を見えますが、「言っちゃダメだよ。応援だけしてあげてね」と制しておきます。当てる子供には手で目隠しをしてもらい、さあ、どんな食べ物が入っているか、お箸で触って当ててごらん、わかったら教えてね。と箱の中にお箸を持った手を入れてもらいました。

応援組の子供達から色のヒントなどを少しだけ教えてもらい、間もなく全員正解できました。これは先生やお母さん達も驚いていましたが同時に非常に喜んでおられました。

このゲームの締めくくりとして、お箸で触っただけでも食材がわかるほど手の一部として脳と直結しているととても繊細なものだと伝え、家庭での食卓、そして箸使いを大切にしていと結びにしました。

子供達は母親も一緒にのせいかテンションが上がりすぎてしまい予想以上に落ち着かせるのが大変でしたが、さすが子供のプロ、園長先生や理事長先生が子供達をうまく誘導してくださり、滞りなく終わることができました。

お母様方からのアンケートはどれも大変好評で、逆にもっと時間を割いて詳しく聞きたかった、テーブルマナーをもっと知りたい、お箸や日本のマナーを大切にしたい、子供が楽しくお箸に興味を持てて良かったと、皆様より有難いご感想をいただきました。

園長先生、理事長先生からは、とっても良かったと思います。何より子供達がとても楽しくできたのが一番良かった、食材当てゲームは全員にやらせたかった。などご感想をいただきました。

バンコクでは定期的に年数回実施している箸講座でしたが、こういう形で実施するのは初

めてだったので、私にとってもとても良い機会でした。

この幼稚園では給食の時にスプーン、フォークに加え、お箸も常備させているので、普段の給食でもお箸と触れ合っていることが良いことなのだと思います。

お箸しかり、クッキングしかり、子供達は大人が思っている以上にできることが多いのだな、と最近園児たちと触れ合いながら思うこの頃です。

この子供達が大人になって、海外でも日本人として食文化を紹介できる大人になってくれるのを期待してやみません。

バンコク 岩田祐子

